

1 学校教育目標	
○ 考える子 ○ 明るい子 ○ ねばり強い子	
2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像	
○学校像	○かけがえのない子どもたちのために、日々の教育活動に責任をもって取り組む学校 ○国・都・区の施策・動向を踏まえながら、当たり前のことを当たり前に行う学校 ○知・徳・体の調和のとれた児童の育成のために家庭・地域、近隣園・近隣校と連携・協働して共育し、共に育つ学校
○児童・生徒像	○考える子 …基本的な学習習慣の定着を図り、主体的な取組を通して基礎的・基本的な学習内容を習得するとともに、それを適切かつ積極的に活用することのできる児童 ○明るい子 …自他のよさや個性を認め、尊重するとともに、良心に基づいて行動し、互いに助け合うことのできる児童 ○ねばり強い子…自らの健康の増進と体力の向上について、目標を立て、達成のために努力する児童
○教師像	○進んで研鑽に励み、教師力を高めようとする教師 ○教育愛に満ち、児童・保護者・地域から信頼される教師 ○危機意識とスピード感をもって組織的に課題に対応できる教師
3 学校の現状及び前年度の成果と課題	
<p>1 学校の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は、1、2年1学級、3～6年2学級の全11学級の編成。児童数は、H28年度の420人から毎年減少傾向にあり、1年生は新年度直前に転入児童があり、かろうじて2学級扱いとなったほどである。R6年度は240名（昨年比-25名）となった。 ・大規模修繕が令和3～5年度で実施された。令和4年度の校庭使用の制限が3ヶ月間あったが、令和5年度の体力調査では、その影響を受けることはなかった。ただ、二極化、運動離れは、依然見られるので、体育的活動を工夫し、体力と健康の保持増進を図る。 ・担任、専科教員の学級・専科経営力を高め、児童の自己肯定感と学級への帰属意識を高める必要がある。（WEBQU調査より） <p>2 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に関しては、校内研究、校内年次研、小中連携、区小研による研究授業、そして日常の授業での授業改善を通し、指導者の授業力向上を図り、学力を維持していくことが今後も課題となる。 ○「GIGAスクール構想」の実現により、児童の情報活用能力と指導者のICT活用能力が高まっている。情報教育リーダーによる、ICTブロック連絡会も機能し、各校と情報共有している。指導者は、Googleアプリを活用し、協働的な学びを実践している。 ○昨年度は、保護者・地域の皆様に学校の様子、子供たちの活動する姿を見ていただくことができた。学校だより、保健・給食だよりなどの各種だよりや配信メール、特にHPでの積極的な情報発信に努めた。また、ICTの環境が整ったことにより、各種案内や連絡をHPに掲載することで、ペーパーレス化を進めたり、学級と児童・家庭をGoogleアプリ「classroom」やHome&Schoolでつないだりすることもできた。保護者アンケートでは、「学校や児童の様子を参観したり、説明したりする機会を適切に設けている。」への肯定的な回答が90%をこえ、高い評価を得られたことがありがたい。（前年同様）「校外学習時のメール配信を楽しみにしています。」「HPで校長ブログ、今日の給食の記事が学校選択の決め手となりました。」などの意見もいただいた。引き続き、情報を発信し、開かれた学校、魅力ある北三谷小を目指していきたい。 ○保護者及び地域は、学校に協力的である。コロナ禍が収束し、地域の取組や行事が再開される中、保護者・地域がどれほどまでに子供たちの健全育成に力を尽くされているのかを再認識できた。学校創立70周年を迎える今年度、地域の教育資源を存分に生かしていきたい。 ・いじめ・いじわるの早期発見、早期解消を図ることができたものの、時間が経過すると、また新たな事案を発見するに至る。今後も、道徳教育を中心に日常的に人権教育を推進し、いじめ早期発見・解消100%を目指す。 	

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力・運動能力の向上と健康の増進	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（学力の定着と向上）							
A 今年度の成果目標		達成基準 （目標通過率）		実施結果 （通過率結果）		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童が自身の向上を実感できる学力の定着と向上に向けた取組の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・R6 区学力調査通過率 5・6年生は区平均並み。 2・3・4年生は区平均を上回る。 ・年度末の到達目標 単元テストの平均達成率 80%以上の児童の割合 80% 							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	ICTの活用	全学年 全教科	授業	【指導体制】 担任・学習支援員 【取組の目的】 足立区 ICT 教育推進基本方針に基づいた、分かりやすい授業と情報を活用した学びを推進し、「発達段階に応じて求められる情報活用能力」を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の方針「情報活用能力」を基準に児童への調査（含む「キーボーイ島チャレンジ」） ・AIドリル、ICT活用状況の児童と教員への調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ1～3の学年に応じたスキル・モラル習得 85% ・「ICTを使うことで勉強が楽しく分かる」児童 80% ・AIドリルの計画的な活用 月間 300 問の取組 			

継続	かけ算九九チャレンジ	第2学年及び未習得児童算数	11月以降年度末まで	【指導体制】 担任・校長 【取組の目的】 かけ算九九の完全習得	<ul style="list-style-type: none"> ・校長と担任の聞き取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月までに全員合格 			
継続	音読・暗唱チャレンジの定着	第1学年 第5学年 国語	授業 業間 放課後	【指導者体制】 担任・校長 【取組の目的】 <ul style="list-style-type: none"> ・MIM-PMの実施 授業の中で特殊音節を指導し、定着を徹底する。 ・「音読チャレンジ」(1年) 「暗唱チャレンジ」(5年) 語のまとまりや言葉の響きを重点にした音読、古典の暗唱。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MIM-PMでの3rdステージの児童の割合(2月) ・音読・暗唱チャレンジの成果(10月、2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・MIM-PMでの3rdステージの児童10%以下 ・音読・暗唱チャレンジ全員達成 			
継続	授業改善による学習内容の確実な定着と考える力・表現する力の育成(主体的・対話的な学習の充実)	全児童 国語 社会 算数 理科	授業	【指導者体制】 担任・算数習熟度別担当 学習支援員 【取組の目的】 <ul style="list-style-type: none"> ・まとめや振り返りを児童の言葉で行う。算数は授業の終末に適用問題を行い、学習内容の定着を図る。 ・言語活動の工夫、ICTの積極的な活用、主体的・対話的な学習を通して、考える力・表現力を育成する。 ・校内研、小中連携による研究授業6回 	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査「主体的に取り組む態度」及び学校調査(4~6年)「学習の進め方」に関する児童の取組状況 ・学校調査「勉強がよく分かる、授業が楽しい」の児童アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・区及び学校調査の項目における児童の主体的に取り組む態度の前年度比アップ ・学校調査「勉強がよく分かる、授業が楽しい」への児童回答85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト 社会・算数・理科の「思考・判断・表現」の観点80%以上の児童の割合80% 		

継続	中学校に つながる 確かな英 語力の育 成	第5、6学 年児童 英語	授業	【指導者体制】 担任・アドバイザー 【取組の目的】 中学校に向けて4技能をバ ランスよく確実に育む授 業と個別支援の充実	・まとめの到 達度診断テ スト (10月、2月) ・区調査問題 を活用した 定着度確認 (2月実施)	・まとめの到達 度診断テス トで達成率 80%の児童 85% ・区調査(2月) 通過率85%			
新規	放課後パ ワーアッ プ教室	全児童及 び、個別 指導を要 する児童	放課後 30分 週4日	【指導者体制】 担任・専科・学習支援員 【取組の目的】 ・基礎的・基本的な学習内 容の定着 ・学習内容が定着していな い児童への補充 ・既習内容のつまずきの克 服と積み上げ	・単元テスト での学習内 容定着度 ・区調査、未 通過児童の 再調査時の 通過率	・国・社・算・ 理とも単元 末テストで の平均到達 度80%以上 の児童の割 合80% ・区調査下位層 (未通過)の再 調査2月にお ける目標値 を通過した 児童数、年度 当初比5%の 向上。			

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全ての児童の明るい学校生活の実現		<ul style="list-style-type: none"> ・学校調査「学校(学級)は楽しい」「友達と仲よく協力し合っている」と感じている児童90% ・目標実現に向けた取組み①～③の達成基準 			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

① いじめ・不登校の防止と早期解決	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・いじわる事案の年度内の解消。児童の悩みの相談相手が先生と回答 70% ・「心の教育」への取組に関する保護者の肯定的な評価 90% ・「WEBQU」調査 学校生活不満足群に属する児童の割合 20%以下 	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童とともに」の徹底、「いじめ防止基本方針」に基づいた児童の自主的な取組の推進、「いじめ防止・SOSの出し方教室」の完全実施 ・豊かな人間関係づくりを目指した児童同士のよさを見付ける機会と場の設定 ・「いじめ対策プロジェクト」による学校・家庭・地域とのネットワーク強化 			
② 自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感、自己有用感に関する学校調査児童の肯定的な評価 90% ・体験的な学びの取組への保護者の肯定的な評価 85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感が高まる機会や場の設定 体験的な学びの機会（学年で年2回以上）、学校 2020 レガシーの推進、近隣幼稚園・保育園・高齢者福祉施設との交流など 			
③ 基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的な行動の仕方やきまりを身に付けさせるための取組」への保護者の肯定的な評価 90% ・生活目標の達成率 70% 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動や保護者・地域との連携を生かした「あいさつ運動」の実施、6年生を中心とした児童の自主的な取組の充実 ・児童による生活目標達成の自己評価 			

重点的な取組事項－3		体力・運動能力の向上と健康の増進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
よりよい生活習慣の確立と運動の日常化、体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活習慣の確立は、下記①②の達成基準 ・体力・運動能力の向上は、体力調査の「体力合計点」が都平均以上を、男女別で6学年以上 				
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>① 健康でよりよい生活習慣の確立</p>	<p>正しい生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いハンカチ 90% (感染症防止) ・早起早寝 85% ・歯みがき 90% ・年間残菜率 2.5%以下 ・むし歯の保有者 10月の段階 20%以内 2月の段階 10%以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい生活習慣確立のための指導と家庭との連携 ・食育指導の徹底 おいしい・安全な給食の提供、給食メニューコントロールへの参加 ・養護教諭・栄養職員の専門性を生かした指導の実施 ・「むし歯ゼロ運動」の推進(家庭への働きかけ、学校保健委員会などとの連携) 			
<p>② 運動の日常化と体力・運動能力の向上(多様な運動の機会と体育授業の充実)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力向上への取組」に対する保護者の肯定的な評価 95% ・「体を動かすことが楽しい・好き」と感じている児童 90% ・体力・運動能力調査「体力合計点」が都平均以上を、男女別で6学年以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力向上推進計画」に基づく体力向上の継続的な取組 ・外遊びの励行 ・体力調査の結果をもとにした、「できる・伸びる・集う・精一杯動く」喜び楽しさを味わわせる授業改善 ・体力の向上と健康の保持増進を目指した「持久走・なわとび月間」への取組(「学校 2020 レガシー」) 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性 (2) 保護者や地域へのメッセージ (3) その他(学校教育活動全般について)